

由利

立教186年

令和5年

10 月 号



全教一斉にをいかけデー

九月

一ヶ月間の主な歩み

十月

一八日 北蒲原分教会霊祭
一九日 北蒲原分教会月次祭
二二日 大教会月次祭
二三日 由利分教会霊祭
二六日 御本部月次祭、由利婦人会
二十七日～二十九日 役員当番、役員会議
二八日～三十日 全教一斉にをいかけデー

二日 支部婦人会
三日 支部例会(岩谷分教会、13時)
五日～一日 大祭巡教
五日 お願いとめ
七日 おさづけ取次日
十三日 由利分教会秋季大祭

今月の言葉

由利分教会長

佐々木 正明

今月の言葉は道友社編「真実の道」より抜粋致します。

柳井徳次郎 「おたすけの心」

九月十二日、A氏がやって来た。悄然としてやって来た。このA氏の言うこと、A氏から私の聞くこと、これはいつも同じだ。おたすけ人にはあるまじき悲しい報告だ。

「会長様、もう今日で百日にもなりますのに、まだなんのご守護もありません。一体どうしたのでしょうか？」

哀れっぱい話の限りだ。いつもの私なら、何とか彼とか、寝言のような教理を取り次いでいたであろう。それが、その瞬間、ふと私の胸にひらめくものがあった。私はそのひら

めきを素早くとらえて諄々と諭した。諭している間に、A氏よりも私がたまらなくなうれしくなってきた。A氏の顔も晴れやかだ。確かに聞き取れずに違いない。

A氏はその勇んだ心でおたすけに行った。そして、確かなことは言いきれぬが、百十幾度目かのおさづけが初めて効きだしたのである。中風はすぐにご守護いただけた。

その日、私がA氏に諭した話、自分自身が諭された話。それは何か？ほかでもない、「かりもの」ただこれだけである。

おたすけに運ばしていただく、自分自身が歩かしていただく、おまえにこの喜びがあるか？というのが話のかかりであった。身上はかりものである、決して私自身のものではない。動かそうと動かそうまいと、私の関わり知ったことではない。神様のご一存でどうにもなることである。

(次号につづく)

九月由利分教会月次祭 大教会後継者 近藤義道さんご来会

九月の当教会の月次祭に大教会より、義道さんが参拝に来られました。おつとめにも出て頂き、その後の直来で楽しく歓談しました。初めて義道さんに会う方も多く、皆さん喜んでいました。



ひのきしんありがとございました 「あゆみの家」屋根ペンキ塗り完成

九月四日より教会向かえにある、「あゆみの家」の屋根のペンキ塗りをおこないました。

削り、下塗り、上塗りという工程で進めたこともあり、十日以上の日



数をかけて完成しました。お忙しい中、ひのきしんに駆けつけて頂いた部内の会長さん達に、心より御礼申し上げます。

本條分教会、佐々木分教会の 会長さん、剪定にご来会

九月十五日～十七日にかけて、新潟より本條分教会、佐々木分教会の会長さんに剪定に来て頂きました。

去年に引き続き、松を剪定して頂き、さらに良い形となりました。

また神殿横、客間の庭の剪定もして頂き、教会の周りがとても見栄えよくなりました。

御多忙の中、遠く秋田まで来て頂き、誠にありがとうございました。



先人の御遺徳を忍び 由利分教会秋季御霊祭執行

九月二十三日(土)、朝づとめ後より御霊祭をおこないました。早朝にかかわらずご参拝頂き、誠にありがとうございました。

年祭活動に勢いを 由利支部にいがけデー実施

九月二十八日～三十日までの三日間、由利、由利道、羽後分教会を会場に、にをいがけデーを実施させて頂きました。

支部内の会長さん達を中心に、神名流しや路傍講演、パンフレット配りをおこないました。激しい雨に打たれる日もありましたが、負けずに勇んでにをいがけさせて頂きました。

これからの行事

第一回 よつぽくー奇活動日

日時 十月二十九日(日)
午前九時半 受付、十時 開始
参加費 三百円
内容 おつとめ、論達拝読、講話DVD鑑賞、振り返り

教区少年会おつとめ総会

日時 十一月三日(土)
午前十時～十四時半頃解散
参加費 二百五十円
持ち物 ハッピー、白タビ、白靴下
内容 おつとめ学び、楽しいゲーム
※三日当日に由利分教会から車が出ます(無料)。参加できる方は佐々木由正までご連絡ください。

神 殿 講 話 矢 島 町 分 教 会 長

開扉・献饌の男子の方は**十時**まで、女子の方は、**十時二十分**までおつとめを着用し、神殿にご集合下さい。

参加申し込みは十月二十日までに所属教会までお願いします。